



農 林 業 セ ン サ ス の 集 計

農 林 業

「農林業センサスには参つた。」という話をよく聞く。調査も大変だったが、集計も容易なわざではないらしい。らしいとは失礼な、とおこられそうだが、事実、集計をやつていて、夜、夢にまで見たという御仁もいる程だから、これは相当な調査である。

時あたかも、池田内閣が新政策を打ち出し、農漁村にいる約 1,600万の人を、今後10年間に6割減らして4割にしたいと言ひ出した。その功罪について論ずるにはお脳が弱いのですが、本県では、上記センサスの集計結果による農家数は21万で全世帯39万の5割3分にあたる。昨年8月1日現在の農家人口 1,252,594人を4割に減ずるとすれば、501,037人となる。

本県においては、第一次産業（農林水産業）に従事する者が多く、ために県民所得も全国平均を下廻つてゐるとは、毎々言われることであるから、農家人口を減らすことは大いに結構なことであるが、それから派生する問題は農業県であるだけに大きいに違ひない。

農林業センサスが、誰かの言葉を借りれば、「実にうまく作つてある」調査であつただけに、調査員と、集計担当者の苦勞も実に大きかつたが、幸いこの調査が、池田新政策にプラスの面で役立てば、10年に1度だからといつて痛めつけられた統計関係者も浮かばれるというものである。